

レポート作成・添削支援システムの構築と運用

構築編
宇都宮 啓吾
大阪大谷大学 文学部
日本語日本文学科

実習を通じた人材育成

表1 実習教育支援の階層構造

	問題点	解決策	キーワード
事後指導 ↑	経験を知識として活用し難い	リフレクション 学習支援	情報発信、文章作成、Web ページ設計
実習支援 ↑	実習生と大学教員の連携が取り難い	遠隔指導支援	ビデオ、非同時同期評価、外部専門家による指導、個別指導
事前指導 ↑	実習現場の様子が判らない	仮想実習支援	ビデオ、仮想体験、他者評価、オンラインレポート、評価学習
基礎教育 ↑	知識を的確に表現できない	論理的表現指導 支援	プレゼンテーション、文章作成、キーワード選択、構文

フィードバック（教材化）

【添削】

- 学習者の書いた文章に、紙面上と同じような「挿入」「書き換え」といった記号や添削が行なえること。
- 部分や全体に対する教員のコメントや注釈(場合によっては参考となるサイトにもリンク可能であること)が記入できること。

【管理・運営】

- 本システムを全学的に利用できるためにも、教員も学習者もそれぞれが使いやすいシステムであること。そのため、Web上でブラウザを用いて本システムが利用可能であることが望ましい。
- 添削・推敲の過程全てを管理できるシステムであること。
- 学習者の文章だけでなく、添削・推敲の箇所や教員のコメント・注釈までもがデータベース化されることによって、特定のテーマに対する注意事項や知識が蓄積・検索可能であること。
- 上記のデータベースが他の学習者にも公開されることによって、学習者自身の基本的知識を高めるのみならず、学習者の添削能力を向上させることを目指すものであること。

先行のe-Learning添削支援システム

- Web版「E-Correct」(株式会社エイペックス:
<http://www.apex.jp/e-correct/webtop.html>)

【CoCoA】

- 矢野米雄・緒方広明・榊原理恵・脇田里子「日本語作文教育のためのネットワーク型添削支援システムCoCoAの構築」(『教育システム情報学会誌』vol.14 No.3 1997)
- 緒方広明・葉田善章・矢野米雄「VCoCoA:VCCMLを用いた非同期型共同添削システム」(『情報処理学会論文誌』Vol.40 No.11 1999)
- 緒方広明・葉田善章・矢野米雄「CoCoA-PE:ネットワーク型添削支援システムCoCoAを用いた文章添削演習環境」(『教育システム情報学会誌』vol.18 No.1 2001)

1. WindowsXPに合わせたバージョンアップが行なわれておらず、今後(新バージョンVista)への対応予定もない。
2. 本来、E-Correctはメールに文書を添付して教員と学生がやり取りする形で実施したものであって、Webアプリケーション用モジュールとしての設計ではない。
3. ActiveX 版も作成したが、Webページ上で閲覧・編集するだけの機能になっており、データベースへの対応はなされていない。
4. Microsoft のOSがバージョンアップすると、それに伴って周辺技術(MSの提供するプラットフォーム技術)も変化するため、先のことを見通すと、ActiveX で開発するのは問題が存する。
5. データベースの導入が行なわれておらず、その設計から検討する必要があるので、時間とコストに問題が生じる。

「レポート作成・添削支援システム」 の特色

- Web 上でブラウザによる操作を可能とする
OSや機種に依存しない
- 文章添削の履歴管理とデータベース化
添削指導の事例化
- 文章添削データの公開
文章作成の自習のユビキタス化

「レポート作成・添削支援システム」 の利点

管理の簡略・明確化

メールによる遣り取りでは全学生の管理が困難であるため、アカウント登録による双方向コミュニケーションが課題レポートの管理とその履歴を明確とした。

添削の容易化

紙ベースでの添削ではなく、インターネット上での添削であるため、時と場所の制約が減った。

添削の標準化と蓄積

各教員の添削結果の蓄積と、その蓄積から各教員相互の添削の有り様を相互に検討しやすくなった。

「レポート作成・添削支援システム」 の効果

添削履歴の明確化

「最初に言われたことを忘れる」といった添削過程の問題点が解消される。なにより、どういった形で添削が進んでいるか、また、複数の課題をこなすことで今までの自分にどんな問題点があったかが明確になる。

推敲の容易化

紙ベースでの添削ではなく、インターネット上での添削であるため、時と場所の制約が減った。教員の添削をそのまま推敲に反映させやすい。